

## 国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン

### 「GO オーガニック署名」要望事項に関する質問票 回答集計

企業名（順不同・敬称略）

生活協同組合連合会コープネット事業連合

イオンリテール株式会社

ユニー株式会社

株式会社ライフコーポレーション

株式会社イトーヨーカ堂

株式会社バローホールディングス

株式会社成城石井

「GO オーガニック署名」に参加した消費者に対して、貴社の国産有機野菜と、ネオニコチノイド系農薬を使用しない野菜・米について、今後のお取り扱いの方針やコメントがありましたらご記入ください。

・国産の有機野菜のお取り扱いに関して。  
(要望：2020年までに、半分以上の農産物に国産有機を導入することを表明する。)

#### 【コープネット事業連合】

2017年度の有機農産物取扱い拡大につきましては、宅配の紙面（またはECサイト）改善の取り組みと合わせ、6月4回で新メディア「ナチュラル」を立ち上げます。

具体的には

1. 有機 JAS 認証商品
  2. 国産または●●産などの産地が明確な商品
  3. 無添加
  4. 環境配慮、資源保護、労働問題等をクリアした認証商品（フェアトレード、レインフォレスト、MSC・ASC など）
- などを中心とした品揃え強化を予定しています。

#### 【イオン】

12,000人の声はとて大きく、無視できません。2020年までに国産の有機野菜の取り扱いを高め、北海道から沖縄までオーガニックコーナー常設店舗を増やすため、身近に買える体制を生産者、そして消費者と共に、真剣に作り上げています。オーガニックの品揃えをさらに国産野菜で充実させ、イオンに行けばオーガニックが買える、と消費者に思ってもらえるようにしたいと思っています。

#### 【ユニー】

国産有機野菜の取り扱いを2020年までに全店へ展開し、有機野菜の取り扱い品目および仕入高を拡大します。また、従業員教育を行い、店頭において有機野菜についての情

報をお客様へ伝達できる体制を整備いたします。

**【ライフ】**

PB（ライフナチュラル）、新業態（ビオラル靱店）などの取組を通じて、地域のお客様のニーズに沿った品揃えをして参ります。

**【イトーヨーカドー】**

有機野菜について、導入拡大の方向で検討中。

**【バロー】**

対象商品を含む商品取扱方針につきまして、公表の予定はございません。

**【成城石井】**

回答なし

・ネオニコチノイド系農薬を使用しない野菜やお米のお取り扱いに関して。  
（要望：ミツバチや子どもの安全のために、まずはネオニコフリーのほうれん草・お米に切り替える。）

**【コープネット事業連合】**

ネオニコについても生産者団体と協議を重ねている。難しいながらも、お互いに何が可能かを模索中。

ネオニコは生産者にとって使い勝手がよいこともあり、生産側としてはネオニコチノイドにかわる代替技術を教えてほしいというニーズはある。ネオニコフリーのお米の生産・管理方法について経験を共有してくれる農家があれば、ぜひ会いたい。

斑点米は、消費者に受け入れられないため（混じっていると実際にクレームがある）、ネオニコを使わないことでどれだけ付加価値をつけられるものか、そこに消費者が価値を見出し、コストを払って買えるか見通せない。

調達基準を一方向的に作る事が必ずしも成功につながらないという過去の経験から、COOPは生産者との対話を通して新しい基準を設定するようにしている。消費者のニーズを伝え、生産者の現状を聞き、農作物の生産、管理、流通の仕組みにどのような変化が必要になるかを検討しながら、調達基準を設定すると、現実的に実施可能な基準になる。

**【イオン】**

ネオニコチノイド系農薬を含め、できうる限り農薬を使用しない、安全性の高い農産物を消費者に提供できるようにしてまいります。

**【ユニー】**

ネオニコチノイド系農薬および、その他の生態系に影響を及ぼすといわれる農薬について、従業員の知識を深めるとともに、農薬全般について使用量を削減するよう関係する農業生産者に要請し、減農薬農作物の取扱いを積極的に推進します。また、お客様へ減農薬農作物について、周知するように努めてまいります。

**【ライフ】**

行政の基準に基づき、適切に対応して参ります。

**【イトーヨーカドー】**

農薬の使用量を抑えた、農産物の栽培を、生産地・生産者・お取引先に推奨する。

**【バロー】**

対象商品を含む商品取扱方針につきまして、公表の予定はございません。

**【成城石井】**

回答なし

署名に参加した消費者にお伝えしたいコメントがありましたらご記入ください。

**【コープネット事業連合】**

回答記載なし

**【イオン】**

「イオンは大量に安いものをうるイメージしかなかった。オーガニックやってたんだ」と言う声を良く聞きます。オーガニックがまだ日本に定着しきれないのは、まさしく少量の消費しかないので、物流や生産にコストがかかり、鮮度が悪く、価格の高いものしかないのがオーガニック野菜の現状です。イオンは、オーガニックを日本の将来のライフスタイルと考え、真剣に取り組みを始めました。《生産》自らオーガニック農産物を生産いたします。イオンには、イオンアグリ創造が運営するイオン直営農場を各地にもっています。また、各地方の生産者の方をグループにして、オーガニック生産のメリットを追求します。《物流》量が増えることで、今まで宅配便などで輸送していたものを、イオンのチルド物流網を使い、新鮮で、お手頃価格で提供できるようにしてゆきます。《販売》「ビオセボンジャパン」の店名でオーガニック店舗の出店を開始いたしました。さらに、全国のイオンのお店でオーガニックコーナーを順次展開しています。イオンはオーガニックに対し、真剣に取り組んでいます。

**【ユニー】**

今回は10,000名を越える消費者の方からの署名を頂戴いたしました。このことは消費者の皆様の意識の高まりを象徴するものとして考えております。弊社といたしましては今まで以上に食の安全・安心への取り組みについて、会社全体で取り組みを進めてま

います。
<b>【ライフ】</b> 回答記載なし
<b>【イトーヨーカドー】</b> ありがとうございました。大変参考になりました。
<b>【バロー】</b> 貴重なご意見を頂戴し、ありがとうございました。
<b>【成城石井】</b> 回答なし

注)

- ・イオン株式会社に署名を提出、回答はイオンリテール株式会社よりいただきました。
- ・株式会社バローに署名を提出、回答は株式会社バローホールディングスよりいただきました。
- ・株式会社成城石井からは質問票への回答をいただけませんでした。